



残そう・伝えよう！身近な生きもの調査事業

テーマ：「雄島の宝 えろもんのふけを守る」

実施校：雄島小学校（坂井市）

里山里海湖研究所では、県内の小学校が実施している生きもの調査や保全活動を支援する「残そう・伝えよう！身近な生きもの調査事業」を実施しています。対象となる小学校に対して、学校専任アドバイザーの派遣、調査に必要な経費の助成、活動を円滑に進めるためのコーディネーターの派遣を行い、身近な生きもの調査・保全活動が継続的に実施されることを目的としています。

このほど対象校の1つ、坂井市の雄島小学校での活動取材してきました。

雄島小学校では、5年生児童が総合的な学習の時間に「雄島の宝 えろもんのふけを守る」をテーマに、校区内にある「えろもんのふけ」と呼ばれるため池に生息する生きものについて学習を進めています。

この日は、雄島小学校の学校専任アドバイザーである出南 信弘さん（えろもんのふけを守る会会長）をはじめ「えろもんのふけを守る会」のメンバーのみなさん、県自然保護センターの松村所長さんと職員の方、福井大学の保科先生と学生さんなど「えろもんのふけ」の保全活動に取り組まれている数多くの方々がそろい、生きもの調査が行われました。

今回行われたのは、「えろもんのふけ」の生きものと、近くの三国海浜自然公園内にある「ひょうたん池」の生きものを比較する調査です。

児童たちは、たも網で「えろもんのふけ」の中をガサガサとしながらすくい上げ、ヤゴやオタマジャクシ、ゲンゴロウなどを捕まえて歓声をあげていました。その他、福井県レッドデータブック2016で「要注目」のカテゴリーに入られている「オオコオイムシ」も見つけることができました。一方の「ひょうたん池」には外来種であるアメリカザリガニが繁殖しており、「えろもんのふけ」に見られるような豊かな生態系は確認できませんでした。



これらのことから、「えろもんのふけ」には貴重な自然環境が残っていることと、外来種によって在来の生物がどんどん減っていることを実感することができました。

平成28年度 陸分風丘緑地の生き物調査のまとめ

クラス名	5年2組 西野					
班名	1	2	3	4	5	6
えろもんのふけ	7	7	7	7	7	5
個体数	47	39	29	11	42	13
多い種	オオコオイムシ	オオコオイムシ	オオコオイムシ	オオコオイムシ	オオコオイムシ	オオコオイムシ
貴重種	オオコオイムシ	オオコオイムシ	オオコオイムシ	オオコオイムシ	オオコオイムシ	オオコオイムシ
ひょうたん池	2	4	3	2	2	2
個体数	10	8	6	3	4	14
多い種	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ
貴重種	—	—	—	—	—	—

次回は、秋に再度調査を行う予定です。

これを機会に、ふるさと福井の豊かな自然について興味・関心を高め、大切にしていこうとする気持ちを育ててもらいたいと思っています。